伝説と歴史の舞台を歩く

光徳寺

大津市
DATA
●歩行時間▶約30分
●歩行距離▶約1.5km

蓮如上人の像の前に立つ「堅田源兵衛父子殉教之像」。境内には源兵衛（法名釋了喜）の墓もある（右上の円内は源兵衛の首と伝わる髑髏）。

堅田源兵衛の首と蓮如ゆかりの寺を訪ねて

近江八景で有名な浮御堂がある堅田は、中世、琵琶湖の通行権や漁業権を一手に掌握していた堅田衆〝湖族〟が栄えたまちで、湖水を引き込んだ掘割が残る風情のある町並みである。

この町を散策していると「堅田源兵衛之首」と記された光徳寺の案内が目に入る。この寺は蓮如上人とゆかりが深く、殉教者の伝説が大切に語り継がれている。

浄土真宗中興の祖である蓮如は延暦寺による法難を受け、宗祖親鸞の御真影を三井寺に預けて越前に身を移すが、その後山科に本願寺建立の際、御真影を取り戻そうとする。しかし、三井寺は「信徒衆の首を二つ持ってくれば返す」と。光徳寺の門徒であった堅田の漁師源兵衛はこの話を聞き、父・源右衛門に自分の首を差し出すように説得。父はわが子の首を打ち、自分の首も打つように寺に申し出た。慌てた寺は御真影を速やかに返還したという。

境内には源兵衛父子の像が建立、本堂には源兵衛の首（髑髏）が安置され、手厚く供養されている。

ちなみに、源兵衛の首は、両願寺（大津市三井寺町）、等正寺（大津市小関町）にもあるらしい。真偽はともかく、これは蓮如の布教活動の拠点でもあった大津で、真宗再興の礎となった源兵衛の殉教心を、後世に広く護り伝えてきた証しといえるだろう。

モデルコース

堅田本町バス停 5分 祥瑞寺 1分 光徳寺 1分 本福寺 1分 湖族の郷資料館 1分 浮御堂 10分 十六夜公園 8分 堅田本町バス停

※堅田本町まではJR堅田駅から堅田町内循環バスで約5分

※移動時間はあくまでも目安です。

堅田には蓮如上人、一休和尚、芭蕉などとゆかりのある寺が多い。トンチで有名な一休和尚が修養したという祥瑞寺や蓮如が近江布教の拠点とした本福寺、堅田の風光に魅せられた芭蕉もこの地で多くの句を詠み、その句碑が残されている。

一休和尚修養の地・祥瑞寺

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。

ねっとも会員限定バックナンバー（過去2年間）を
KEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中！
http://www.keibun.co.jp/members/30th_walking/